



橋本 実

回復期リハビリ
テーション病棟専従

栃木県小山市出身

自治医科大学卒業

総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、人間ドック健診専門医・指導医など

芳賀日赤病院、旧烏山町境診療所、小山市民病院、石橋総合病院などで勤務

2026年4月1日、城西病院の回復期リハビリテーション病棟の専従医師として入職しました。

自治医科大学の4期生として入学。「祖父の勧めもあり、自治医大に決めました。当時は、自治医大駅もなく、周りは畑や田んぼ、牧場でした」と語ります。「医師になって、研修で各科を回りました。小児科に行った時、白石理事長がいました。カテーテル治療を行っていた時の様子はよく覚えており、城西病院でお会いして懐かしかった」と振り返ります。

消化器内科を選んだのは、指導医との出会いがあったといいます。「内視鏡や胃カメラの指導をしてくださる先生がいて、後期研修の際にはその先生の指導で学会で4回発表しました」と語ります。

消化器内科として芳賀日赤や小山市民病院にいたころは「当直やオンコールで急患対応をして大変だった」といいますが、「患者さんの話をよく聞き、なるべく苦痛のない内視鏡や胃カメラなどの検査・治療を心がけていた」ために、「こんなに楽だったんだ。処置をしてもらってよかったと退院していく患者さんが多かった」といいます。

回復期リハビリテーション病棟は、石橋総合病院で病棟立ち上げから携わった経験があるといいます。回復期リハビリテーション病棟専従医師講習会を受講し、約8年間、病棟を運営してきました。「一般病棟から回復期リハビリテーション病棟に移り、リハビリなどで日常生活が送れるようになるまで回復して退院していく。患者さんのほとんどが元気になって帰っていきました」と目を細める。

城西病院では「多くの患者さんを受け入れ、安全にリハビリや治療に専念できるようにしたい。内科疾患もしっかりと治療して、リハビリできる環境を作っていきたい。症状が回復し、これまで歩けなかった患者さんが歩けるようになってニコニコしながら帰っていく。そんな姿を見るとうれしいです」と話す。

休日などは、地元の小学校ミニバスケットボールチーム「豊田フレンズ」の監督として活躍。26年間、夫婦ともに練習で指導し、2012年には全国優勝も果たした強豪チームという。